

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

豊富な地熱資源を利用

再生エネの現場公開

発電事業に新規参入した中央電力(東京)が地熱発電所を熊本県に建設し、2014年4月に運転を始めます。国内での新設は15年ぶりです。地熱発電は、地下でマグマの熱を利用し、蒸気ので電気を生み出す仕組みです。火山国である日本の資源量は世界有数で北海道、東北、九州などに十数カ所の地熱発電所があります。

ほとんどは高い山の中にあります。九州電力の山川(やまがわ)発電所は例外です。海拔43メートルという立地は、地熱発電所としては異例の低さです。

山川発電所は鹿児島県指宿市にあり、JR山川駅から車で約10分という便利な場所です。展示室が併設されており、年末年始以外はいつでも見学できます。

シアターでは地熱発電の仕組みなどが分かる映画が上映されます。巨大な蒸気タービン、発電機、冷却塔、立ち上る蒸気を目の当たりにすると迫りに圧倒されます。

発電所の出力は3万キロワットです。指宿市の世帯数のほぼ半分に相当する約1万世帯の電力を賄えるとPRされています。

海外には消費者が電源、つまり発電の仕方を選ぶようになっている国もあります。多少電気代が高くなっても再生可能エネルギーを使おうという家庭は珍しくありません。日本でも消費者に「電源選択の自由」が与えられれば、エネルギー問題への理解が深まり、省エネが一層進むのではないのでしょうか。

九電のように再生エネルギーから電気が生まれる現場を公開することは、環境への意識を高めることにつながります。山川発電所のオープンテラスからは、開聞岳の雄姿を眺めることができ、観光資源としても魅力にあふれていました。(株式会社グッドバンカー)